

サステナブルファイナンスと熱帯地域の林業

生物多様性のためのエンゲージメント

ROBECO
The Investment Engineers

ロベコは1929年設立の国際的資産運用会社で、本部はオランダ・ロッテルダムにあり、世界17か所に拠点を持ちます。サステナブル投資の分野を率いるグローバルリーダーとして、1995年以来サステナビリティサーチとファンダメンタルズ及びクオンツリサーチを独自に統合してきた当社は、機関投資家や個人投資家に対し多岐にわたるアクティブ投資戦略を提供しており、幅広い資産クラスに対応することが可能です。2021年6月現在、ロベコの運用資産総額は2,000億ユーロで、そのうち1,770億ユーロがESG統合に振り分けられています。ロベコはオリックス・コーポレーション・ヨーロッパN.V.の子会社です。詳細はwww.robeco.comをごらんください。

ロベコのアクティブオーナーシップとエンゲージメント

アクティブオーナーシップはサステナブル投資における重要な原則で、ロベコの戦略全体の中核をなすものです。企業とのエンゲージメントにおいては顧客の立場に立って建設的な取り組みを行います。当社がエンゲージメントを行う企業は世界中にあり、株式から債券まであらゆるポートフォリオをカバーし、**国連の持続可能な開発目標(SDGs)**に沿った幅広いテーマにおいて実施しています。当社のエンゲージメントプログラムは2005年から実施しており、ロベコ単独でのエンゲージメントのみならず他の投資家とのコラボレーションも幅広く行っています。当社のエンゲージメントには2種類あります：

- **エンハンスドエンゲージメント**は、**国連グローバル・コンパクト(UNGC)**や**OECD多国籍企業行動指針**に対して重大かつ構造的な違反をしている企業に焦点を当てています。この種のエンゲージメントの目的は、発生した違反を排除し、適切な管理システムを取り入れてそのような違反の再発を防ぐことにあります。当社はこのプログラムにおける企業とのエンゲージメントを最大3年間としており、エンゲージメントが不成功に終わった場合、投資除外の候補となります。
- **バリューエンゲージメント**は、株主のために価値を創造する可能性が最も高い重要なサステナビリティテーマに焦点を当てた積極的なアプローチです。顧客とロベコの投資チームとの間で緊密なコンサルティングを行い、毎年3〜5つのエンゲージメントのテーマを選びます。どのテーマにおいても常に財務上重要なトピックに注目し、投資可能な分野におけるESGの問題に幅広く対応しています。エンゲージメントはテーマごとに実行期間は3年で、エンゲージメントテーマへの企業の事業リスク度合いや顧客のポートフォリオにおける保有状況に基づき、テーマごとに平均10社を選びます。

ロベコのアクティブオーナーシップ活動に関する詳細は、当ケーススタディ末尾の「参考資料」に示した2020アクティブオーナーシップパンフレットをごらんください。



新たなエンゲージメントのテーマ：生物多様性

農地拡大のための伐採による森林破壊の結果、土地利用変化による生物多様性の損失に投資家は晒されています。

したがって当社のエンゲージメントにおいて注目するのは**生物多様性に対する森林伐採の影響**で、それには5つの高リスクな農産品が関連しています。ココア、天然ゴム、大豆、牛肉、そして**熱帯林由来の木材とパルプ**です。

このプログラムではこれらの5品目を調達する12社に注目しており、そのうち2社が熱帯林由来の木材とパルプを扱う企業です。

生物多様性に注目する理由

生物多様性の損失は、今後数十年にわたり社会に影響を及ぼす可能性がある重大な地球規模の生態学的脅威の一つです。世界のGDPの半分以上は自然の恵みに基づくものであり、前例のないほど生物多様性損失のおそれに直面している現在、その価値は高いリスクにさらされています。したがって当社は、2020～2023年のエンゲージメントプログラムにおける新たな5つのエンゲージメントテーマの一つとして、生物多様性に注目することを決めました。

当社のエンゲージメントで注目する点

選出した企業とのエンゲージメントを構成し、当該企業の実績評価を行うため、当社は**スマート(特定(S)、測定可能(M)、達成可能(A)、関連性(R)、時間限定(T))**という5つのエンゲージメント目的を定めています

これらの目標こそ、企業にとって、そして投資家にとって価値をもたらす最大の可能性を持つと考えます。

- **エンゲージメント目的のうち最初の3つ**は、エンゲージメント対象企業の環境管理に主眼を置いています。特に明確な注目点は、森林破壊ゼロへのコミットメント、生物多様性への影響評価、動植物相の回復と保全、循環型経済の原則を企業の生産ラインに適用することにあります。
- **目的の4つ目**で対応するのは、情報開示、認証取得(熱帯地域の林業においてはFSCやPEFCなど)とトレーサビリティです。
- **5つ目の目的**は、商品生産の社会的側面に目を向け、地域社会や地権の扱いに対応しつつ、労働者の権利にも配慮しています。

“各企業について、エンゲージメント期間内に達成しうると期待できる、難易度は高くとも現実的なエンゲージメント目的の達成水準を定めました。定めた水準に到達したとき、エンゲージメントは成功裡に終わったこととなります”

〇ペコ

シニアエンゲージメントスペシャリスト
ピーター・ヴァン・デル・ワーフ

これらの5つの目的は、選出企業の生物多様性における影響や、そういった影響を最小限にするアプローチ、そして企業の情報開示についてもカバーしています。

企業との対話に先立ち、当社ではまず徹底してテーマについてのベースラインとなるリサーチを行い、詳細な企業プロフィールを準備し、各企業における当該テーマの事業露出度をマッピングします。

得られるメリット



この3年間のエンゲージメントプログラムにより、**SDG15番目の目標「陸の豊かさを守ろう」**の実現にロベコは貢献できると考えます。このことは、重大な生物多様性リスクにさらされている当社の投資先企業において、より持続可能な事業運営を促すでしょう。たとえば、期限を定めた森林破壊ゼロへのコミットメントの策定や、サプライチェーンにおけるトレーサビリティの推進により、これらのコミットメントのモニタリング状況を改善することなどです。当社は企業とのエンゲージメントが、長期的な投資の成果と社会の両方に対してプラスの影響をもたらすと確信しています。

課題

当社にとって特に重要な目下の課題は、企業の生物多様性フットプリントを測定するには、利用できるデータが現状でも不足していることです。企業側がこのようなデータギャップの解消に対してできることとしては、たとえば**サプライチェーンにおけるトレーサビリティ及び透明性の推進**や、事業展開地域における生物多様性の価値の数値化を検討することです。

生物多様性の計測には、様々な空間スケールや生態系次元に至るデータが必要となります。企業の生物多様性フットプリントの計測を可能にする指標の設定と導入には、まだまだ努力が必要です。

次なるステップー生物多様性とポートフォリオ管理の統合

2020年9月30日、ロベコをはじめ世界中の25の金融機関による**生物多様性のためのファイナンス誓約**が国連総会の生物多様性サミットにおいて発足し、生物多様性の保護と回復を、金融活動や投資を通じて行うことを誓約しました。誓約への署名に伴い当社が表明したのは、協同と知識の共有、企業とのエンゲージメント、生物多様性に対して当社の金融活動や投資が及ぼす影響の評価、目標設定ならびに遅くとも2024年までには進捗状況を公表することです。

投資先企業に対する意味合い

誓約の下での当社のコミットメントにより、生物多様性エンゲージメントという文脈での企業との対話に止まらず、当社のポートフォリオにおける生物多様性フットプリントにも目を向けることになるでしょう。

コミットメントに沿った活動をするため、当社は生物多様性のための基準作りに取り組み、影響評価を行うことによって、生物多様性に大きくプラスやマイナスの影響を与える投資活動を特定し、**生物多様性に関する目標**を設定して当社のポートフォリオが生物多様性に与える全体的な影響の軽減を目指します。

“ 森林破壊や生物多様性損失と強い関わりを持つ業種に属する企業、たとえば熱帯地域の林業をはじめ高リスクの産品を原料に用いるあらゆる企業に対して期待するのは、今こそ行動を起こし生物多様性への影響を測りつつそれを軽減することです。生物多様性への取り組みをおろそかにする企業は、金融機関に対する訴求力を失うリスクに直面することになるでしょう。金融機関の間で生物多様性保全への関心やコミットメントの輪がますます広がりつつあるからです。”

ロベコ
シニアエンゲージメントスペシャリスト
ピーター・ヴァン・デル・ワーフ



他の関係者に期待すること

生物多様性のためのファイナンス誓約に署名した当社は、世界中の指導的立場にある人たちに呼びかけます。効果的な方策によって自然破壊の流れを今後10年間で逆転させ、生態系がレジリエンスを保てるようにしうではありませんか。また、未だ誓約に署名していない金融機関に対しても署名を急ぐよう強く促します。さらに、高リスクの産品を原料に用いる企業、すなわち熱帯材・パルプ業界などに対しても、業界全体で生物多様性損失を抑える行動を取るよう呼びかけます。誓約の詳細は、次のURLをごらんください。

www.financeforbiodiversity.org/

参考資料

- **ロベコSI Opener on Biodiversity:**
<https://www.robeco.com/en/insights/2020/09/si-opener-loss-of-biodiversity-is-a-bigger-threat-than-climate-change.html>
- **ロベコの2020年アクティブオーナーシップパンフレット:**
<https://www.robeco.com/docm/docu-brochure-governance-active-ownership.pdf>

ZSLはベレニス・ブルジョアとピーター・ヴァン・デル・ワーフに対し、このケーススタディの準備に携わったことに謝意を表します。

ZSL (Zoological Society of London) の開発したSPOTTは無料のオンラインプラットフォームで、持続可能な商品生産と取引をサポートするものです。透明性の追求により、SPOTTは企業が最良の慣行を取り入れられるよう促します。SPOTTが評価する対象は、商品生産業者、加工業者、トレーダーの情報公開の状況で、各業者の組織、方針、実際の経営手法について環境、社会、ガバナンス(ESG)の観点から精査します。投資家、バイヤーその他特に影響力の大きい人はSPOTT評価の活用により、ステークホルダーエンゲージメントに情報を提供し、ESGリスクを管理し、複数の業種にわたる透明性を高められます。

SPOTTの活動は英国政府による資金援助を受けていますが、ここに記した見解は必ずしも英国政府の公式な方針を反映しておりません。

